

## 平成29年度 研究の概要



### 『自ら考え、豊かに表現できる生徒の育成』 ～他者との「学び合い」を通じた学習指導の工夫(3年次)～

#### 1. 研究主題設定の理由

毎年実施される全国学力・学習状況調査生徒質問紙や本校独自の生徒アンケートより、本校の生徒は、目的意識を持ち前向きにがんばる姿が見える一方、学級への帰属感(互いのかかわりの意識)が高いとは言えない、多くが授業の中で自己の考えを説明したりすることが難しいと感じているという課題を抱えている。また、教員間では授業づくりにおいて「協同的な学び」、「互いに関わり合いながら学ぶ活動」に対する意識が向上しており、「お互いに学び合う活動」を通して「自ら考え自己を表現できる生徒」を育成したいと考え、一昨年度より本主題に取り組んでいる。

2021年度から完全実施になる新学習指導要領のキーワードは、「主体的、対話的で深い学び」であり、日々の授業の中でその具現化が求められている。昨年度は、各教科ごと「学び合い」そのものをどのように展開させていくかに焦点を置いた授業構築について追究してきた。その結果、「学び合いによって効果が高まる題材、課題設定、学習活動のあり方」について、方向性が少しずつ見えてきたところである。

今年度は昨年度の研究成果を更に深化させると共に、学習指導部と連携しながら、日々の授業にそれらをよりつなげていくことを目指したい。

#### 2. 研究の目標

ペア、グループ学習等の学習形態を学習場面に応じて適切に取り入れるなど、他者との「学び合い」を通じた学習活動を工夫することで、一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を身につけさせる。

### 3. 研究の方法

- ①「定期的に」研究推進委員会を開き、検討、調整、確認を行う。また、全職員の共通理解および学年部会等での生徒理解を図る。
- ②「定期的に」教科部会を開き、教科の研究テーマ・具体的な手立て等を検討し、授業研究を進める。(教科部会における事前検討会および事後研究の強化。道徳の授業については学年部会で事前研究、事後研究を行う。)
- ③年2回の校内授業研究会を実施する。研究会での授業者以外は6～11月の間に授業研究を行い、教科内で参観、事後研究会を行う。

### 4. 研究の視点

- <視点1> 生徒につけたい力の明確化
- <視点2> 「他者との学び合い」がある授業の工夫
- ・「学び合い」によって効果が高まる題材の工夫
  - ・「学び合い」によって効果が高まる課題の設定
  - ・「学び合い」によって効果が高まる学習活動の工夫
- <視点3> 「見通し」と「振り返り」のある授業  
(生徒にとって魅力ある課題設定の工夫、生徒自身の変容と達成感)
- \* 「見通し」 → 「学び合い」 → 「振り返り」 ⇒ 「生徒につけたい力」のサイクル(つながり)を大切にしていきたいと考える。

### 5. 研究の計画

- 4月 研究推進委員会にて、今年度の研究主題、研究方針、研究内容を検討  
校内研修会にて、今年度の研究主題、研究方針、研究内容を検討
- 5月 教科部会にて、研究テーマ、研究授業、年間指導計画を検討  
研究推進委員会にて、指導案形式、研究会の持ち方等検討  
校内研修会にて、指導案形式提示
- 6月 各教科の授業研究開始(～11月)
- 7月 教科部会にて、全体授業研究会への方向性検討 校内研修会(授業づくり)
- 10月 教科部会、学年部会にて、全体授業研究会指導案検討
- 11月 校内授業研究会(各教科 道徳)
- 1月 研究推進委員会にて今年度の成果と課題を確認
- 2月 研究紀要によるまとめ